

## 発熱の原因についてのご案内

ご来院いただきありがとうございます。

咳や痰などの呼吸器症状や腹痛や下痢などの消化器症状がない場合、発熱の原因がはっきりしないことがあります。時間の経過とともに症状が出そろう、最終的な診断に至る方がたくさんいらっしゃいます。初診時に原因がはっきりしなかった場合でも、ご安心ください。また、熱以外の症状が現れず、自然に治癒する場合があります。

### 当院で行う確認について

当院では、発熱の原因をより正確に判断するため、以下の確認を行っています。

- 聴診による確認: 肺炎の兆候がないかをチェックし、肺の健康状態を確認します。
- 心臓の確認: 心音に雑音がないかを確認し、感染性心内膜炎など、心臓が発熱の原因になっていないかを調べます。
- 喉と首のリンパ節の確認: 喉を診察し、リンパ節を触れて咽頭炎や扁桃炎、扁桃周囲膿瘍などがいないかを確認し、さらに首のリンパ節が腫れていないかをチェックして感染症の有無を判断します。
- 腰の確認: 尿路の症状がある方に対しては、腰のあたりをたたくことで、尿路感染症が悪化して腎盂腎炎を引き起こしていないかを確認します。

### インフルエンザ・コロナ検査が陰性だけど、原因はなに？

これは非常によくお伺いする質問です。

新型コロナやインフルエンザの検査が陰性の場合、原因がわからず不安に感じられるかもしれませんが、実は、発熱の原因となるウイルスは多種多様ですが、検査で判別できるのはそのごく一部にすぎません。特に一般的な風邪のウイルスなど、多くのウイルスは専用の検査がなく、感染しても自然に回復することが多いです。具体的には以下のようなウイルスが風邪の原因となることが多くあります。

- ライノウイルス: 一般的な風邪の原因ウイルスで、鼻水やくしゃみを引き起こします。
- コロナウイルス(風邪の一種): いわゆる「風邪コロナウイルス」もあり、軽度の発熱や喉の痛みを引き起こします。
- アデノウイルス: 高熱や喉の痛みを伴うことがあり、急性上気道炎や咽頭結膜炎の原因になります。
- エンテロウイルス: 夏に多く見られるウイルスで、発熱や喉の痛みに加え、まれに手足に発疹が出ることもあります。手足口病の原因にもなります。

## 呼吸器感染症以外の発熱原因について

発熱の原因は呼吸器感染症だけではなく、幅広い可能性が考えられます。

いくつかの例を挙げます。

- 尿路感染症：特に女性に多く、排尿時の痛みや頻尿とともに発熱が現れます。
- 腸管感染症（細菌性腸炎など）：下痢や腹痛を伴うことが多く、食事や水分の摂取から感染する場合があります。
- 急性胆嚢炎：右上腹部の痛みを伴い、発熱や寒気がみられることが多いです。
- 急性膀胱炎：頻尿や排尿時の痛み、悪化すると発熱が見られることがあり、特に女性に多いです。
- 急性虫垂炎：右下腹部の痛みが徐々に強くなり、発熱を伴うことが多いです。

## 経過観察と解熱剤の使用について

原因がはっきりするまでの間、解熱剤を使用して経過を見ることもあります。

解熱剤は一時的に熱を下げ、体の負担を軽減するために役立ちます。

症状が長引いたり、他の症状が現れたりする場合は再診をおすすめいたします。

何かご不安な点がございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。経過とともに診断がはっきりしてくる場合も多いため、安心してお過ごしください。

一ノ割駅前休日診療所  
院長 大西剛史

TEL 048-795-4799